

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5700m付近で-18℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧が、前線を伴って東シナ海を東北東進。低気圧や前線の周辺では対流雲が発達。南西諸島を中心に活発に発雷し、激しい雨を解析。奄美では昼過ぎに竜巻注意情報を発表。西日本と南西諸島でやや強い風を観測。
- ② 前線を伴った低気圧が日本の東を東北東進し、前線が伊豆諸島付近を通過して、①の低気圧にのびている。低気圧周辺からのうねりが伝搬し、北～東日本太平洋側では波の高い所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線を伴った低気圧は発達しながら、2日朝にかけて種子島・屋久島付近や本州の南岸を通過して日本の東に進み、850hPaの相当温位330K前後の暖湿気が低気圧や前線に向かって流れ込む。その後、低気圧は、500hPa 5460m付近で-24℃以下の寒気を伴うトラフに対応して閉塞しながら日本の東を北東進し、3日にかけて千島の東に進む。下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨が降って大雨となる所がある。これまでの大雨で地盤の緩んでいる所では、土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。南西諸島では1日は、東日本では2日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。南西諸島では1日は、東～西日本では2日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。気温の低い北日本の山沿いを中心に雪が降り、大雪となる所もある。東北地方では2日は大雪や着雪に注意。
- ② 2項①の低気圧や前線の影響で、強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北～東日本太平洋側では1項②のうねりの影響も残る。南西諸島では1日と3日は、北～西日本では3日にかけて、強風や高波に注意。東北太平洋側の海上では2日は、強風に注意・警戒。
- ③ 2～3日は、2項①の寒気トラフの影響で、本州付近の上空に500hPaで-24℃以下の寒気が流れ込み、大気の状態が不安定となる所がある。また、2日は、日本海西部から西日本付近、東日本太平洋側付近は気圧の谷となり、風が収束し対流雲が発生しやすくなる。西日本では2日は、東日本では2～3日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 2項①の降水や日中の昇温の影響で、雪解けの進む所がある。北～東日本の多雪地では3日にかけて、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等]** ① 雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島100mm。② 大雪(18時からの24時間)：東北20cm。③ 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島4、北海道・東北・東海・近畿・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。